

長野県GAP生産者確認表(米)

発行 長野県GAP推進会議
策定 平成30年1月24日
改定 令和6年9月27日

番号	確認項目
1 農場経営管理(経営体制全体・リスク管理)を主な目的とする取組	
1-1	周辺環境を踏まえたほ場等の農場経営に必要な基本情報(栽培品目名、ほ場や施設の名称・所在地等)を整備し、必要に応じて文書化していますか
1-2	雇用労働のある場合、組織体制を定め、責任体制(責任の範囲及び責任者)を整備し、作業員や従業員に周知していますか 責任者の能力を向上するための体制を整備していますか
1-3	本GAPの取組(「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」)の継続的改善に関わる事項を明確にし、それに沿った方針(経営方針等)を策定し、周知していますか
1-4	本生産者確認表に沿った農場の管理方針やルールを、農場として定めていますか 農場のルールに基づく運営や実施状況の確認、必要に応じた見直しを実施していますか
1-5	出荷する農産物への農場名等の表示の管理を行っていますか 出荷記録と収穫記録及びそれ以外の農場の管理等に関する記録が結びついており、これらの記録が保存されていますか
1-6	農産物の汚染や事故防止のため、健康管理を十分に行い、体調がすぐれない時は作業や入場を控える等の労働安全、食品安全・衛生管理、環境保全に配慮した農場への入場ルールを定め、農場入場者(訪問者等含む)に遵守を周知していますか また、作業員に対しても周知していますか
1-7	以下の取組等の知的財産の保護・活用をしていますか 出荷物にブランド名などをつけて販売する際は、商標登録に注意していますか 育成した品種・開発した技術・ブランド名などは、知的財産権を取得するなど知的財産の保護・活用をしていますか 登録品種を自家増殖する際は、育成者に許諾を得ていますか 他者が保有する知的財産を侵害しないよう、確認していますか
1-8	農場経営の方針に基づいた生産計画を策定し、実施した農作業を記録し、実績を計画に対して評価し、必要に応じて次の計画に課題を改善・反映していますか
1-9	農場の管理を実証するために必要な本生産者確認表における各種記録を整理し、保管期間を定めて保管していますか
1-10	使用した肥料等(肥料、堆肥、土壌改良資材、客土等)の記録を行い、一定期間保存していますか
1-11	生産から出荷までの間で作業を外部委託する場合、工程管理の信頼性を確保するための農場のルールに基づく管理を遵守するよう、外部委託先との合意をしていますか
1-12	食品安全を確保するための資材・種苗等のサービス提供者(検査機関を含む)への信頼性や安定供給等の評価及び選定に係る方法を定めて実施していますか
1-13	クレーム・農場のルール違反への対応手順を定めて対応していますか クレーム・農場のルール違反の概要と対応状況の記録を作成・保存していますか
1-14	事業継続計画の策定や農業保険への加入の検討等、事故や災害等に備えた農業生産の維持・継続のための対策をしていますか
1-15	肥料や農薬、出荷農産物等の計量機器の点検と計量結果に狂いがないかの精度を確認し、正していますか
1-16	作業員が必要な力量を身に付けるため、作業員に教育訓練、資格取得の推進をしていますか
2 労働者の安全管理(労働安全および労働者の人権保護)を主な目的とする取組	
2-1	農場の基本情報に基づき、労働安全に関する危害要因を特定してリスク評価を実施していますか リスクが高いと評価・判断した事項についてリスクや汚染防止に係る低減・排除する対策を実施するための農場のルールの設定及びこれに基づく対策の実施、検証、見直しを実施していますか

番号	確認項目
2-2	雇用・労働環境における人権侵害防止について、管理方法を定めて実施していますか
2-3	事故が発生したときに備え、救急箱、清潔な水や緊急連絡先とその連絡方法を準備し、事故対応手順を定めて掲示するなどして農作業従事者へ周知していますか
2-4	労働基準法等に定められた労働条件を遵守し、労使間における労働条件、労働環境、労働安全等に関する意見交換を経営者と雇用者間で実施していますか（雇用有りの場合）
2-5	技能実習生（育成就労外国人）などの外国人雇用がある場合、適切な対応を行うための環境整備等を実施していますか
2-6	経営全般について、家族間の十分な話し合いに基づく家族経営を実施していますか（家族経営のみの場合）
2-7	農作業中の事故の発生や疾病の罹患などに備えて、労災保険に加入していますか
2-8	適切に実施しないと危険を伴う作業（機械作業や高所作業、農薬散布作業等）の従事者に対し、必要な能力及び資格を得るための訓練を実施していますか
2-9	安全な作業のために、①使用する機械等の説明書を参照して、必要な保護装備や適切な服装・適切な保守管理を確認したうえで、②適切な服装や装備（保護具）を適正に着用し、③保護具の保守管理を適切に行っていますか ①②③をルール化して、全ての作業従事者が適切に服装を着用し、適正に保護具を装着・管理していることを確認していますか （具体例：農薬使用の際、マスク・メガネ・手袋・防護服等の着用、刈払い機による除草の際は、飛散物から目を保護するため、防護メガネ等の着用、トラクターなどを運転する際、ヘルメットの装着）
2-10	器具、容器、設備、機械・装置及び運搬車両について、適正な使用をしていますか
2-11	農薬の容器等の表示内容を確認し、表示に基づく安全な作業を行うための装備（防除衣、保護装備等）を整え、調製、防除、片付け作業を行っていますか 農薬使用後は適切に散布後の防除衣、保護装備等の片付け作業を行い、適切に洗浄、乾燥して、他への汚染がないように保管していますか
2-12	ライスセンター等の乾燥調製・貯蔵施設の適正な管理・運営を行っていますか また、施設の管理者とオペレーターとの責任分担は明確に決まっていますか ※燃料の使用量によっては、「乾燥設備主任者」を設置しなければならない場合があります、確認が必要です
3 食品安全を主な目的とする取組	
3-1	農場の基本情報に基づき、食品安全※（品質を含む）に関する危害要因を特定してリスク評価を実施していますか リスクが高いと評価・判断した事項についてリスクや汚染防止に係る低減・排除する対策を実施するための農場のルールの設定及びこれに基づく対策の実施、検証、見直しを実施していますか ※食品安全はコーデックス規格のHACCPの考え方にも沿うこと
3-2	トイレは整備されていますか、または作業場所等から短時間で行けるトイレ・手洗い設備について、借りることができる公共の場所等を把握していますか その他にも以下の取組等による衛生管理を実施していますか 荷造り調製作業前やトイレ後には、しっかり手洗いを行っていますか トイレ・手洗い設備は定期的に点検し、清潔に保たれていますか
3-3	ほ場やその周辺環境（土壌や汚水等）、廃棄物、資材等からの危害要因による土壌の汚染及び土壌中の危害要因に由来する農産物の汚染の可能性に関する評価を実施していますか 評価結果に基づく対策を実施していますか
3-4	作業場などの農産物取扱施設・設備は、保守管理、点検、整備、清掃等され、有害生物の侵入・発生防止対策や異物、有毒植物等の混入防止対策を実施していますか
3-5	作業場所での飲食・喫煙場所の指定・制限や農場内の農産物に共通する工程の確認等による異物混入やアレルゲン等との交差汚染の対策をしていますか
3-6	収穫した米穀を適切に保管、貯蔵し、全ての農産物取扱施設（調製・出荷作業場、保管・貯蔵施設など）における衛生管理と鮮度保持を実施していますか
3-7	異種穀粒や異物の混入防止対策を実施していますか

番号	確認項目
3-8	米粉用米及び飼料米等の用途限定米穀及びカビが付着した等の食用不適米穀は、きちんと食用と区別して保管・販売・処分していますか
3-9	過去の穀類や生産ほ場におけるカドミウム濃度の情報を踏まえ、必要に応じて、穀類や農地土壌のカドミウム濃度の実態を把握し、基準値を超えている場合は低減対策を実施していますか
3-10	堆肥製造の際は、適切な期間・温度の発酵維持による雑草種子、有害微生物の殺滅対策等の実施をしていますか
3-11	農業用水の水源とその周辺に水を汚染する可能性のある施設等がないか、いつどのように水を使用し、水に含まれる危害要因（大腸菌や重金属の含有状況等）と農産物への吸収及び蓄積等について確認し、安全性を判断していますか 安全性の判断結果から、使用する水の用途も考慮して、リスクが高い場合は対策（消毒した水の使用や水の使用時期を制限等）を実施していますか
3-12	器具・容器・設備、機械・装置及び運搬車両を把握し、清掃等による衛生管理や点検整備、また安全装備等の確認をしていますか 農業用機械の取扱説明書はよく読み、きちんと保存したうえで、①適切な使用前点検、②適正な使用、③適切な使用後の整備・管理をしていますか
3-13	栽培・収穫・調製・運搬に使用する器具・包装容器等や掃除道具及び洗浄剤・消毒剤・機械油等について、安全性の確認を実施するとともに、適切な保管、取扱い、洗浄等を実施していますか （具体例：鎌等は使用前後に数を常に確認し、使用後はよく洗浄する、農産物を輸送したコンテナ等は洗浄して清潔にして保管する、無香料の石けん等により農産物への移り香を防ぐ、農産物に直接触れる機械の潤滑油は食品規格のものをを使うか、カバー等で油による汚染を防止する、等）
3-14	農業用燃料・オイル等の燃料類は、労働安全・食品安全・環境保全に配慮して適切に保管し、在庫を管理していますか 例えば、万一の燃料類流出時に備えて、流出時に回収できるよう、オイルマット等の吸着できるものを備えていますか
3-15	信頼できる供給元からの適正な手段による種苗の入手、育苗の管理をしていますか 育苗の管理及び種苗の調達に関する記録の保管をしていますか
3-16	隣接ほ場からの農薬ドリフトの影響を回避するため、隣接ほ場で使用される農薬について情報を把握するよう周囲の農薬使用者と適切にコミュニケーションをとるなどしていますか
3-17	農薬の使用にあたり、使用する予定の農薬の情報をまとめ、使用基準違反を防ぐ農薬使用計画を策定していますか
3-18	農薬は、農薬使用計画に基づき、適正に農薬を使用するとともに、使用前に容器のラベルに書かれている登録内容や、使用濃度や散布方法など、適正な使用方法の再確認を実施していますか
3-19	農薬使用前に、使用する防除器具類（散布機や灌注機等）はしっかり点検していますか 使用後は、使用器具・薬液タンク・ホースの洗浄を十分行い、器具の洗浄排液は適切に処理していますか 農薬の残液があった場合は、適切に処理していますか
3-20	農薬の使用記録を行い、一定期間保存していますか
3-21	農薬は、いたずら防止のためカギのかかる場所に保管し、在庫を管理していますか 医薬用外劇物・毒物はそれ以外のものと分けて適正に表示・保管していますか 危険物は火災等のないよう、適切に貯蔵し、取り扱っていますか 農薬保管庫は通気性を確保していますか 農薬を他の容器に移し替えないなど、事故のないように保管していますか 万一の農薬流出時に化学反応等が発生しないような配置や流出防止対策を実施したうえで、流出時に回収できるよう、ほうき、砂等を備えていますか
3-22	農薬の責任者を定め、農薬散布作業へは農薬の適正使用に係る農薬散布指示書等による散布指示をしていますか 農薬の使用計画 → 準備作業 → 農薬の使用 → 後片付け → 保管及び在庫管理の工程が適切か、農薬の責任者が確認し検証する作業に取り組んでいますか
3-23	堆肥施用の際は、数日間高温で発酵されたなど、堆肥原料と製造方法を確認した適切なものを使い、未熟堆肥の施用を回避していますか
3-24	施用する肥料等（肥料、堆肥、土壌改良資材、客土等）は原材料・製造工程の把握による安全性・成分の確認を行っていますか 食品安全・環境保全に配慮した肥料等の利用計画を策定していますか

番号	確認項目
3-25	食品安全・環境保全・労働安全に配慮して肥料等（肥料、堆肥、土壌改良資材、客土等）の保管、在庫管理を行っていますか
4 環境保全を主な目的とする取組	
4-1	農場の基本情報に基づき、環境に負荷を与える要因を特定してリスク評価を実施していますか リスクが高いと評価・判断した事項についてリスクや汚染防止に係る低減・排除する対策を実施するための農場のルールの設定及びこれに基づく対策の実施、検証、見直しを実施していますか
4-2	堆肥などの有機物施用による土づくり等を通じた、適切な土壌管理を行っていますか
4-3	施肥基準・施肥設計（県施肥基準・JA栽培暦等）や土壌診断結果に基づく施肥計画を策定し、計画に基づく施用を行っていますか
4-4	土壌の侵食を受けやすいほ場では、侵食を軽減する対策を行っていますか
4-5	ほ場及び農産物取扱施設からどのような排水（排水中の栄養成分を含む）が出ているか把握していますか 排水樹や沈殿槽の設置等による排水由来の水源汚染を防止していますか 排水の栄養分を減らし、排水の栄養分由来の富栄養化を防止していますか 排水路が詰まったり、排水が溢れないよう管理していますか
4-6	農場から出る廃棄物を把握していますか 廃棄物を処理するまでに一時保管する場合、プラスチック、金属および作物残さ等、分別して適切に保管していますか 農場から出る廃棄物（プラスチックや不要農薬等）は野焼き等の不適正な処分焼却を回避し、JAや処分業者を通じて廃プラスチック回収するなど、適正に処理していますか 作物残さは堆肥化してほ場に還元したり、生分解性マルチを使用するなど、有効活用等により廃棄物の削減の取組を実施していますか
4-7	農場内の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）を実施していますか
4-8	農薬は、周辺環境を汚染しない場所で必要な量だけ調製し、使用した計量機器等の洗浄を適切に実施していますか
4-9	温室効果ガス削減の取組等を行っていますか （具体例：中干期間の延長や秋耕の実施、アイドリングストップ等の燃料の節約、緩効性肥料の利用や炭素貯留の取組の実施など）
4-10	周辺住民などに騒音、振動、悪臭、煙・埃・有害物質の影響がないよう飛散流出防止等の配慮・対策をしていますか （具体例：機械操作の騒音トラブルに留意する、トラクター等で公道を走る際にはタイヤに付着した泥を落として移動する、等）
4-11	農薬使用の際は、以下に示すような周辺作物・周辺住民および生態系への影響を回避する取組を実施していますか （具体例：強風時には散布を行わない、飛散防止用ノズルへの交換、周辺ほ場の作付および収穫時期を常に把握する、土壌くん蒸剤使用の際は、適切に被覆する、など）
4-12	代かき後の濁った水が、ほ場外へ流れないように対策を実施していますか （具体例：浅水代かきの実施、畦塗り・畦シートの実施、止水板の利用など）
4-13	水田で農薬を使用した場合は、水田からの農薬の流出を防ぐ対策を実施していますか （具体例：農薬ラベルに記載の止水期間の遵守、畦畔の整備、降水が多くなる場合は農薬使用を中止するなど）
4-14	農場と農場周辺にどのような動植物が生息しているか、希少動植物、在来種、外来種等を認識し、それらにどのような変化があるのかを把握していますか ほ場へ有害鳥獣が侵入しないようネットの設置で接近を制限する等、生物多様性に配慮した鳥獣被害防止対策をしていますか 食品残さを放置しないなどの管理をしていますか
4-15	抵抗性品種の導入や輪作の実施、土壌の排水性の改善等により病害虫・雑草の発生しにくい条件を整備して予防していますか（IPM/「予防」の取組）
4-16	病害虫・雑草の発生時は発生状況の把握と防除の要否と防除のタイミングを判断して必要なときのみ防除していますか（IPM/「判断」の取組）

番号	確認項目
4-17	防除は化学合成農薬だけでなく多様な防除対策（防除資材や使用方法等）を積極的に選択・導入していますか（具体例：種子消毒における温湯や微生物農薬の利用など）（IPM/「防除」の取組）